

# 生きて、生きて、生きぬいて

戦傷病者とその家族が語る戦中・戦後の労苦

- 2007年8月1日(水)～9月2日(日)
- しょうけい館1階
- 10:00～17:30(入館は17:00まで)
- 休館日:毎週月曜日
- 入場無料

終戦から半世紀余りが経過して、戦争体験者は年毎に少なくなっています。いまなお戦傷病者とその家族の労苦は続いています。その労苦はさまざまで、戦傷病者とその家族の数だけ存在します。「さまざまな労苦」とは、どのようなものがあるのでしょうか。

戦中・戦後を生きぬいて、さまざまな労苦を乗り越えた戦傷病者とその家族の体験を、証言映像・実物資料・図書によりご紹介いたします。

## シアター上映タイトル

「傷痍軍人の妻として」  
 「遙かなる故郷」  
 「字を書く手を受傷して」  
 「衛生兵ゆえの感染」  
 「支えられた歩み」  
 「療養所は大きな家族」  
 「赤レンガのぬくもり」



証言映像シアター(1F)

「父のまなざし」  
 「伸びきった最前線での受傷」  
 「衛生兵のビルマ戦線」  
 「親指が支えた人生」  
 「受傷した身にまた召集が」  
 「平和の光を見つめて」



治療の順番を待つ間、枕にしていた雑嚢

当館は、戦傷病者とその家族等が戦中・戦後に体験したさまざまな労苦についての証言・歴史的資料・書籍・情報を収集、保存、展示し、後世代の人々にその労苦を知る機会を提供する国立の施設として、昨年3月に開館致しました。

しょうけい館という館名は、戦傷病者とその家族等の労苦を知り、語り継ぐという趣旨から、受け継ぎ、語り継ぐという意味の「承継」という言葉からとっています。

## 2F 常設展示



## 1F ご利用できる施設



総合案内受付



情報検索コーナー

ここでは、①実物資料、②図書、③証言映像、④戦傷病者の記録について、検索できます。



図書閲覧室

戦傷病者の体験記や従軍体験者の回想記を中心に医療、援護施策に関する書籍などを収集しています。自由に検索・閲覧できます。



- 地下鉄をご利用の場合  
「九段下」駅6番出口から徒歩1分  
(東西線、半蔵門線、都営新宿線)
- 都営バスをご利用の場合  
「九段下」停留所から徒歩1分  
(高71系統(九段下～高田馬場駅))

※駐車場はありません。公共交通機関をご利用ください。  
 ※車椅子で来館される場合は館のA入口をご利用ください。